

特集

# 山城

# 信長

## が築いた 小牧山城

小牧山城が歴史に登場するのは2回。

1回目は織田信長が小牧山に城を築いたとき。

2回目は織田信雄・徳川家康連合軍が小牧・長久手の戦いで小牧山城に陣を置いたとき。

今回の特集では2つの時代の小牧山城を紹介します。

**Q** どうして信長は小牧山に城を築いたのですか？

**A** 美濃攻めの拠点として清須城から城を移しました。30歳の信長が初めての自らの手で築いたのが小牧山城です。

**Q** 信長はどんな城を小牧山に築いたのですか？

**A** ①【石垣の城】信長は小牧山城をこれまでの土でできた城ではなく、石垣を使用した石の城としました。人々は初めて見る石の城を驚異の目で眺めたことでしょう。

②【まっすぐな道（大手道）】通常、

城は敵の侵入を防ぐため、道は曲げられて造られます。まっすぐな大手道を持つ城は、全国で小牧山城と安土城（信長が築いたもう一つの城）の2つだけありません。このまっすぐな道には信長の意味が強く表れているともいえます。

③【城下町】信長は城と同時に城の南側に城下町をつくりました。この城下町は日本の城下町の元祖といわれています。

信長は、戦うためだけではなく、視覚的な効果を狙った城づくりをしたのではないのでしょうか。石垣もまっすぐな道も信長の築いた斬新な城に、人々は驚き、恐れたことでしょう。

信長が築いたときの小牧山城復元想像図



広報こまき 9月1日号から小牧・長久手の戦いに関する豆知識を紹介するコーナーが始まります。(各月1日号に掲載) どうぞお楽しみに。



土塁と堀

空堀

虎口

家康が防御機能を強化した箇所

もっと知りたい!

# 小牧

# 家康

が守った  
小牧山城

Q 「小牧・長久手の戦い」はなぜ起こったのですか？

A 信長の後継者争いとして勃発した、羽柴（後の豊臣）秀吉と織田信雄・徳川家康連合軍の戦いです。そして家康と秀吉が唯一直接戦ったのがこの「小牧・長久手の戦い」です。

Q 信雄・家康連合軍と秀吉どっちが勝ったのですか？

A 信雄・家康が陣を置いた小牧山城でにらみ合いが続いたあと、長久手での戦闘では信雄・家康連合軍が優勢となりました。しかし最終的には両者が和解して、8カ月間の戦いは終わりました。

Q 小牧山城でのにらみ合いの様子は？

A 犬山の楽田に本陣を構えた約10万人の秀吉軍に対し、小牧山に陣城を築いた信雄・家康連合軍はわずか約1万7千人の兵で挑みました。

強敵である秀吉軍から守るため、家康は小牧山城を堅固な守りの城に大改修しました。この改修は小牧山を2重の土塁（敵の侵入を防ぐための堤防）で囲み、堀（敵の侵入を防ぐための溝）をいくつも備えるなど大掛かりなものでしたが、家康はわずか5日間でのこの大仕事を終えたとされています。それほど緊迫した状況だったということです。

## 大河ドラマ「どうする家康」に小牧山城が登場するかも・・・??

来年1月から始まる大河ドラマの主役が徳川家康なのはご存じでしょうか？その名も「どうする家康」。

脚本を手がける古沢良太さんは、半年をかけて家康ゆかりの地を巡り、ストーリーを書き上げたそうです。これまで天下統一を果たし、江戸幕府を開いた偉人として描かれることが多かった家康ですが、このドラマでは目の前の問題を乗り切ろうと右往左往する等身大の人物として描かれるとのこと。

小牧山城もドラマの舞台に登場するかもしれませんね。



▲番組プロデューサーインタビューの様子

